様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２７ 日現在

機関番号：３２６１９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ０２７３５

研究課題名（和文）学修行動調査の指標と評価方法に関する国際比較研究

研究課題名（英文）International Comparative Study on Indicators and Assessment Methods of Student Engagement Survey

研究代表者
相原　総一郎（Aihara, Soichiro）

芝浦工業大学・教育イノベーション推進センター・教授

研究者番号：３０２１２３５１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：　アメリカ、英国、オーストラリアでは全国的な学修行動調査を実施している。本研究では、それらの指標と評価方法を調査した。英国とオーストラリアの調査項目については和訳した。また、大学院生調査やグローバル・コンピテンシーを測定する調査等は、今後の日本でも発展が見込まれる。アメリカの全国大学院生調査のデータを入手し、分析した。グローバル・コンピテンシーの測定については、共同研究でアメリカの調査票から日本語版を作成し、予備調査をした。
　なお、パンデミックの影響で海外渡航が制約されたため、インターネットによる資料収集を余儀なくされた。そして、急遽、全学で始まった遠隔授業に関するアンケート調査を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
日本でも文部科学省により全国学生調査が実施されようとしている。アメリカ、英国、オーストアリアの学修行動調査の研究は、学術的にも社会的にも意義がある。本研究では、指標や評価方法に焦点をあてて調査し、調査項目の日本語訳を作成する。海外の大学院生調査やグローバル・コンピテンシーの調査は、今後の日本でも発展が見込まれる。アメリカの大学院調査のデータを分析した。そして、グローバル・コンピテンシーについては共同研究で日本語版の予備調査を実施した。
　なお、予定外であったが、パンデミックの期間中に遠隔授業のアンケートを実施した。学生と教員に継続的に実施した調査データは学術的にも社会的にも貴重である。

研究成果の概要（英文）：　The United States, the United Kingdom, and Australia have conducted national student engagement surveys. This study investigated their indicators and evaluation methods. Survey items in the UK and Australia were translated into Japanese.
　In addition, surveys of graduate students and surveys on measuring global competencies are expected to be conducted in Japan in the future. Data from a national graduate student survey in the U.S. was obtained and analyzed. To measure global competencies, as a collaborator, I created a Japanese version of the questionnaire from the original U.S. questionnaire and conducted preliminary surveys.
　Due to restrictions on overseas research travel caused by the pandemic, I was forced to collect materials via the Internet. Then, I conducted the survey on distance learning, which had been started at the university on short notice.

研究分野：高等教育論

キーワード：学修行動調査　全国学生調査　教育の質保証　研究大学　博士課程　大学院　グローバル・コンピテンシー　遠隔授業

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（1）学校教育法及び国立大学法人法等により大学評価が義務付けられ、大学は組織として自己点検評価を継続的に行うことが求められている。内部質保証の確立のために、多くの大学ではIR(Institutional Research)を導入し、データに基づく評価・改善の仕組みを構築している。

（2）大学における自己点検評価システムや IR のための学修行動調査が開発された。学修行動調査は、学生の自己申告による学修の過程と成果に関するデータの収集、分析結果の可視化を可能にした。そして、大学における評価文化の普及を促進した。しかし、現状の学修行動調査の利用は、集計結果の分析が主であり、指標のベンチマーキングによる評価から教育活動の改善方向を示す利用は一般的でない。

２．研究の目的

（1）大学評価における学修行動調査の社会的条件、指標と評価方法に着目し、日本の大学のための評価指標と評価方法を確立することである。

（2）現状の学修行動調査は学士課程が対象である。大学院教育の評価や留学プログラムの効果測定は、今後の発展が見込まれる。アメリカの調査について情報収集と分析をする。

（3）パンデミックの影響で全学的に遠隔授業に実施される事態が発生した。研究計画の予定外であるが、遠隔授業の実態をあきらかにする。

３．研究の方法

（1）アメリカ、英国、オーストラリアが開発・実施する全国的な学修行動調査を調査する。

アメリカの主な学修行動調査には、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)高等教育研究所(HERI)が運営する共同 IR プログラム(Cooperative Institutional Research Program: CIRP)とインディアナ大学ブルーミントン校中等後教育研究所(CPR)が運営する全国学生エンゲージメント調査(National Survey of Student Engagement：NSSE)がある。この 2 つの調査は既にまとめている。本研究では、英国とオーストラリについて調査する。英国については、学生局(OfS)が管理する全国学生調査(National Student Survey: NSS)を調査する。そして、オーストラリアについては、政府公認の学生経験調査(Student Experience Survey: SES)を調査する。

（2）アメリカについて、本研究では大学院教育の評価とグローバル・コンピテンシーの測定を調査する。大学院教育の評価は、アメリカ研究協議会(NRC)が開発・実施した大学院生調査のデータを分析する。グローバル・コンピテンシーの効果測定は、共同研究の一環として、MGUDS-S(Miville Guzman Universality Diversity Scale-Short Form)の日本語版を作成する。そして、留学プログラムの効果測定を実施する。

（3）コロナ禍のもとでの遠隔授業について学生と教員に全学アンケート調査を実施する。

４．研究成果

（1）アメリカ、英国、オーストラリアの学修行動調査について

アメリカの学修行動調査については既に研究成果をまとめている。共同 IR プログラム（CIRP）については、広島大学高等教育開発研究センター『大学論集』43 集 2012、44 集 2013、短期大学コンソーシアム九州『短期高等教育研究』4 巻 2014、IIAI-AAI2012、2013、2014、全国学生エンゲージメント調査（NSSE ）については『大学論集』47 集 2015 である。本研究では、英国とオーストラリアの学修行動調査を調査した。

英国については、2017 年調査の主要設問の更新理由を分析した。その結果、全国学生調査（NSS）は学生エンゲージメントと学生の学習経験を重視する方向で展開していることがわかった。たとえば、学習経験より就業能力と関連するとされた「自己開発」領域の設問は削除された。また、調査時点で NSS は 2023 年調査に向け調査項目の点検中であり、全般的な満足度の項目は削除の方向で議論が進んでいた。その後、2023 年調査ではイングランドの調査では利用されないことになった。NSS は満足度調査からエンゲージメント調査へと展開している。本研究では NSS の主要設問について 2005-2016 年版と 2017-2021 年版の対照表を作成し、展開をまとめた。

オーストラリアでは、2012 年から学生経験調査（SES）を開始し、2015 年から学習教育のための質指標（Quality Indicators for Learning and Teaching：QILT）を公表している。現在では、複数の学生調査から入学から就職までの情報を公表する。本研究では、オーストラリアの学生調査の発展と QILT の活用をまとめた。また、学生経験調査（SES）の日本語訳を作成した。

研究成果（英国とオーストラリアの学修行動調査）

・「英国における全国学生調査の展開」（doi.org/10.50956/mjir.10.0_78_16）2021 年

・「オーストラリアにおける学生調査と学習教育のための質指標 (doi.org/10.50956/mjir.11.0_138_25)2022 年

（2）大学院教育の評価とグローバル・コンピテンシーの測定

大学院教育の評価では全米研究協議会(National Research Council: NRC)の評価データを用いた。NRC では 1982 年から研究大学の大学院博士課程の質を評価して、結果を公表している。

本研究では、2010 年評価の一環として 2006 年に実施された博士課程学生アンケートを分析した。そして、第一に、大学院生の特徴を専攻分野について検証した。物理・数理科学、工学、生物・健康科学、社会・行動科学、人文科学の 5 つの専攻分野について、大学院生の属性と主要な財政支援源について特徴をまとめた。第二に、大学院生の研究成果の要因を分析した。参照枠組にはティントの学業継続モデルとアスティンの I-E-O モデルを用いた。そして、大学院生の研究成果には、研究発表や査読付き論文数で測定した。分析結果からは、研究旅費への財政的支援や指導教員との関係等がプラスに働いていることをあきらかにした。

グローバル・コンピテンシーの測定では、共同研究者として Miville-Guzman Universality-Diversity Scale, Short Form (MGUDS-S)の日本語版を開発し、予備調査を実施した。

まず、MGUDS-S は、アメリカ高等教育で 2006 年に実施された学士課程教育の大規模調査、ウォバシュ教養教育全国調査(Wabash National Study of Liberal Arts Education：WNSLAE）で学習成果を測定する指標の一つに選ばれていた。そこで、(1)どうして MGUDS-S は学士課程の学習成果を測定する指標に選ばれたのか、(2) MGUDS-S はどのように学士課程の学習成果を評価するかをまとめた。

次に 2019 年に MGUDS-S 日本語版の試行調査を実施した。対象は短期留学プログラムに参加した 281 名である。MGUDS-S は 3 つの下位尺度および総合尺度について事前・事後の調査からグローバル・コンピテンシーを測定する。予備調査では、各尺度の得点が事前から事後に上昇し、1%水準で統計的有意あることが示された。MGUDS-S は、より客観的で国際的に通用するグローバル・コンピテンシーの測定ができる。2020 年には MGUDS-S 日本語版調査を全学的に実施することを計画していた。しかし、パンデミックの影響で海外渡航は制約され、全学では緊急に遠隔授業が始まった。オンラインの語学研修と国際 PBL について MGUDS-S による効果測定をした。そして、オンライン語学研修について統計的有効性をあきらかにした。

研究成果（アメリカの大学院教育とグローバル・コンピテンシーの測定）

・Doctoral Students in the American Research Universities: the Difference by Major Field（DOI 10.1109/IIAI-AAI.2018.00094）2018 年

・アメリカ研究大学における大学院生の学術活動－全米研究協議会(NRC)の大学院生調査 2006 年から－（doi.org/10.50956/mjir.7.0_76）2018 年

・Determinants of the Research Outcomes of Doctoral Candidates in the Engineering Field of the American Research University(DOI 10.1109/IIAI-AAI.2019.00094) 2019 年

・アメリカ研究大学博士課程の評価－全米研究協議会(NRC) の大学教員調査 2006 年から－（doi.org/10.50956/mjir.9.0_22）2020 年

・The Differences by Field: Doctoral Students in American Research Universities（doi.org/10.52731/ijirm.v4.i2.490）2020 年

・アメリカ高等教育におけるグローバル・コンピテンシーの評価（doi.org/10.50956/mjir.8.0_98）2019 年

・Measuring Global Competency as the Role of IR（DOI 10.1109/IIAI-AAI50415.2020.00081）2020 年

・Can Online Study Abroad Programs During Covid-19 Promote Global Competencies? (DOI:10.1109/IIAI-AAI53430.2021.00044)2021 年

（3）遠隔授業の評価

2020 年は 1 ヶ月遅れの 5 月に授業が始まった。6 月に遠隔教育の質を保証するため授業担当の教員を対象にアンケート調査を実施した。調査結果から、遠隔授業の出席率や理解度は対面学習と同等以上であった。また、教員は通信環境やハンディキャップを持つ学生に配慮していた。

2020 年は、前期はすべての授業がオンライン実施、後期は一部の授業が対面式になり、多くの授業はオンライン実施であった。学生と教員への調査から、1）授業形態がブレンディッドラーニングに移行、2）学生の授業理解度が変化、3）学生の授業満足度が変化したことについてまとめた。ブレンディッドラーニングが開始され、学生の理解度や満足度は向上した。また、この開発の背景には、教員、職員、学生が連携して取り組んだ教育イノベーションがある。

研究成果（遠隔授業の評価）

・Faculty Survey on the Distance Learning of Engineering Education during the COVID-19（DOI：10.1109/TALE48869.2020.9368495）2020 年

・Development of Online Learning Practices in a Japanese University Based on the Questionnaire Surveys（CRID:1010013168636217861）(ISBN：9782873520236)2021 年

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計13件（うち査読付論文　13件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　8件）

１．著者名 Soichiro Aihara, Hatsuko Yoshikubo, Hiroyuki Ishizaki	４．巻 10
２．論文標題 Can Online Study Abroad Programs During Covid-19 Promote Global Competencies?	５．発行年 2021年
３．雑誌名 International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI)	６．最初と最後の頁 249-254
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/IIAI-AAI53430.2021.00044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Soichiro Aihara, Hiroshi Suzuki, Kazumi Tsunoda, Yuka Hoshi, Masahiro Inoue	４．巻 49
２．論文標題 Development of Online Learning Practices in a Japanese University Based on the Questionnaire Surveys	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Proceedings - SEFI 49th Annual Conference: Blended Learning in Engineering Education: Challenging, Enlightening - and Lasting?	６．最初と最後の頁 648-655
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 相原総一郎	４．巻 10
２．論文標題 英国における全国学生調査(NSS)の展開― 2017年における主要設問の更新を中心に ―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 大学情報・機関調査研究会（Meeting on Japanese Institutional Research）	６．最初と最後の頁 78-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50956/mjir.10.0_78_16	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Soichiro Aihara, Toru Sugihara, Kahori Ogashiwa, Kumiko Kanekawa, Masao Mori, Sachio Hirokawa	４．巻 81
２．論文標題 A Preliminary Study on the Medium-term Plan of Public Universities Transferred from Private Universities	５．発行年 2022年
３．雑誌名 International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI)	６．最初と最後の頁 230-239
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.29007/56sc	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Soichiro Aihara, Hatsuko Yoshikubo	4．巻 9
2．論文標題 Measuring Global Competency as the Role of IR	5．発行年 2020年
3．雑誌名 International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI)	6．最初と最後の頁 366-369
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/IIAI-AAI50415.2020.00081	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 相原総一郎	4．巻 9
2．論文標題 アメリカ研究大学博士課程の評価― 全米研究協議会(NRC)の大学教員調査2006年から ―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 大学情報・機関調査研究会（Meeting on Japanese Institutional Research）	6．最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50956/mjir.9.0_22	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Soichiro Aihara	4．巻 4
2．論文標題 The Differences by Field: Doctoral Students in American Research Universities	5．発行年 2020年
3．雑誌名 International Journal of Institutional Research and Management	6．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.52731/ijirm.v4.i2.490	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Soichiro Aihara, Tadahiro Hasegawa, Hiroshi Suzuki, Masahiro Inoue	4．巻 2020
2．論文標題 Faculty Survey on the Distance Learning of Engineering Education during the COVID-19	5．発行年 2020年
3．雑誌名 IEEE International Conference on Teaching, Assessment, and Learning for Engineering (TALE)	6．最初と最後の頁 952-955
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/TALE48869.2020.9368495	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Soichiro Aihara	4．巻 8
2．論文標題 Determinants of the Research Outcomes of Doctoral Candidates in the Engineering Field of the American Research University	5．発行年 2019年
3．雑誌名 International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI)	6．最初と最後の頁 430-433
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/IIAI-AAI.2019.00094	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 相原総一郎	4．巻 8
2．論文標題 アメリカ高等教育におけるグローバル・コンピテンシーの評価 ― Miville-Guzman Universality-Diversity Scale, Short Form (MGUDS-S)を中心に ―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 大学情報・機関調査研究会（Meeting on Japanese Institutional Research）	6．最初と最後の頁 98-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50956/mjir.8.0_98	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Soichiro Aihara	4．巻 7
2．論文標題 Doctoral Students in the American Research Universities: the Difference by Major Field: An Analysis of the Doctoral Student Survey 2006 by the National Research Council	5．発行年 2018年
3．雑誌名 International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI)	6．最初と最後の頁 442-445
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/IIAI-AAI.2018.00094	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 相原総一郎	4．巻 7
2．論文標題 アメリカ研究大学における大学院生の学術活動－全米研究協議会(NRC)の大学院生調査2006年から－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 大学情報・機関調査研究集会（Meeting on Japanese Institutional Research）	6．最初と最後の頁 76-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50956/mjir.7.0_76	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 相原 総一郎	4．巻 11
2．論文標題 オーストラリアにおける学生調査と学習教育のための質指標	5．発行年 2022年
3．雑誌名 大学情報・機関調査研究集会（Meeting on Japanese Institutional Research）	6．最初と最後の頁 138-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50956/mjir.11.0_138_25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計23件（うち招待講演　1件／うち国際学会　10件）

1．発表者名 相原総一郎
2．発表標題 オーストラリアにおける学生調査と学習教育のための質指標
3．学会等名 第11回大学情報・機関調査研究会（Meeting on Japanese Institutional Research: MJIR）
4．発表年 2022年

1．発表者名 相原総一郎、鈴木洋、角田和巳、星由華、井上雅裕
2．発表標題 芝浦工業大学のアンケート結果にみる遠隔授業実践の挑戦
3．学会等名 大学教育学会第43回大会
4．発表年 2021年

1．発表者名 Soichiro Aihara, Hatsuko Yoshikubo
2．発表標題 Can Online Study Abroad Programs During Covid-19 Promote Global Competencies?
3．学会等名 10th International Congress on Advanced Applied Informatics (DSIR2021)（国際学会）
4．発表年 2021年

１．発表者名 Soichiro Aihara, Hiroshi Suzuki, Kazumi Tsunoda, Yuka Hoshi, Masahiro Inoue
２．発表標題 Development of Online Learning Practices in a Japanese University Based on the Questionnaire Surveys
３．学会等名 SEFI 48th Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Soichiro Aihara, Toru Sugihara, Kahori Ogashiwa, Kumiko Kanekawa, Masao Mori, Sachio Hirokawa
２．発表標題 A Preliminary Study on the Medium-term Plan of Public Universities Transferred from Private Universities
３．学会等名 11th International Congress on Advanced Applied Informatics (DSIR2021 Winter)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 相原総一郎
２．発表標題 英国における全国学生調査(NSS)の展開― 2017年における主要設問の更新を中心に ―
３．学会等名 第10回大学情報・機関調査研究会（Meeting on Japanese Institutional Research: MJIR）
４．発表年 2021年

１．発表者名 相原総一郎
２．発表標題 グローバル・コンピテンシーの評価とIRの役割
３．学会等名 高度専門職人材教育研究センターシンポジウム（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 相原 総一郎、吉久保 肇子、橘 雅彦
２．発表標題 グローバル・コンピテンシーの測定とIR の役割
３．学会等名 大学教育学会第42回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Soichiro Aihara, Hatsuko Yoshikubo
２．発表標題 Measuring Global Competency as the Role of IR
３．学会等名 9th International Congress on Advanced Applied Informatics (DSIR2020)（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 相原総一郎
２．発表標題 アメリカ研究大学博士課程の評価― 全米研究協議会(NRC)の大学教員調査2006年から ―
３．学会等名 第9回大学情報・機関調査研究集会（Meeting on Japanese Institutional Research: MJIR）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Soichiro Aihara, Tadahiro Hasegawa, Hiroshi Suzuki, Masahiro Inoue
２．発表標題 Faculty Survey on the Distance Learning of Engineering Education during the COVID-19
３．学会等名 IEEE TALE2020（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Soichiro Aihara, Hatsuko Yoshikubo
２．発表標題 Assessment of Online Study Abroad Programs During Covid-19
３．学会等名 10th International Congress on Advanced Applied Informatics (DSIR2021)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Hatsuko Yoshikubo, Soichiro Aihara
２．発表標題 Cross-Cultural Competence Impact of the Short-Term Study Abroad Programs
３．学会等名 Higher Education Planning in Asia (HEPA) Forum（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉久保肇子，相原総一郎，橘雅彦
２．発表標題 工学系大学における短期語学研修プログラムの評価
３．学会等名 大学教育学会第41回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 相原総一郎
２．発表標題 アメリカ研究大学の博士課程における大学院生の研究経験－全米研究協議会(NRC)による大学院生調査2006年より－
３．学会等名 日本高等教育学会第22回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Soichiro Aihara
２．発表標題 Determinants of the Research Outcomes of Doctoral Candidates in the Engineering Field of the American Research University
３．学会等名 8th International Congress on Advanced Applied Informatics (DSIR2019)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Soichiro Aihara
２．発表標題 How Should Graduate School Education at Research University be Reformed: Findings from the NRC Graduate Student Survey 2006
３．学会等名 16th International Conference on Higher Education Reform (HER2019)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 相原総一郎
２．発表標題 アメリカ高等教育におけるグローバル・コンピテンシーの評価― Miville-Guzman Universality-Diversity Scale, Short Form (MGUDS-S)を中心に―
３．学会等名 第8回大学情報・機関調査研究集会（Meeting on Japanese Institutional Research: MJIR）
４．発表年 2019年

１．発表者名 相原総一郎
２．発表標題 アメリカ研究大学における大学院博士課程教育の評価－全米研究協議会(NRC)2006年大学院生調査から専門分野の比較を中心に－
３．学会等名 日本比較教育学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Soichiro Aihara
２．発表標題 Doctoral Students in the American Research Universities: the Difference by Major Field
３．学会等名 7th International Congress on Advanced Applied Informatics (DSIR2018)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 相原総一郎
２．発表標題 アメリカ研究大学の博士課程における学生と教員の相互作用－全米研究協議会(NRC)による大学院生調査2006年より－
３．学会等名 日本教育社会学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 橘　雅彦，吉久保肇子，相原総一郎
２．発表標題 芝浦工業大学のグローバル化のとりくみ～短期海外研修のインパクト～
３．学会等名 グローバル人材育成教育学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 相原総一郎
２．発表標題 アメリカ高等教育における学修行動調査の発展－評価指標を中心に－
３．学会等名 アメリカ教育学会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関